

第3回オントロジー研究会開催報告

2006/10/31

主査 京都大学化学研究所・五斗進

副査 産業技術総合研究所・福田賢一郎

ゲノムプロジェクトとそれに続くポストゲノムプロジェクトによって得られる多種多様なデータを収集し解析するために世界中で大小含め様々なデータベースが開発され、またこのようなデータベースを上手に利用するための各種のオープンソフトウェアが公開されている。日本でも多くのデータベース、ソフトウェアが開発されており、これらを効率よく利用できる環境を構築することは重要である。

このような趣旨から今回は日本国内におけるデータベースの開発現状をデータベース作成者・データベース利用者（応用プログラム開発者）の方々に集ってもらい議論してもらおうと考え、オープンバイオ研究会と共催で研究会を開催した。中規模から小規模レベルでデータベースを構築している研究者および、それらをプログラムからアクセスして解析に用いている研究者に講演をお願いした。70余名の参加者から技術的な側面、生物学的な側面について様々な議論があった。また、逆に発表者から会場へ質問を投げかけるなど、作成者・利用者がそれぞれ苦労している点、工夫している点、今後の方向性などを議論していく場を提供する機会として意義深い研究会となった。